

## ■認知症に関する活動計画（概要）

（渉外部）

- 地域支援事業における対県、対市町村・対他団体（主にリハ専門職協会を想定）との交渉・連絡および人材の選定・派遣（以下、認知症関連を抜粋）  
「認知症初期集中支援チームの参加者」「認知症初期集中支援チームの会議の傍聴」

（事業部）

- 認知症カフェの運用（仙台市太白区および大河原町）

（教育部）

- 地域包括ケアに資する人材育成研修会（介護予防・日常生活支援総合事業および認知症編）の開催（年度内2回）
- 昨年度（R4/2）は、地域支援事業に資する人材育成研修会「認知症の人の生活支援編」を会津若松市第2地域包括支援センターの榎森先生をお招きして開催

（部局連携室）

- 地域ケア会議・介護予防日常生活支援総合事業・認知症関連事業の参画のための（士会組織における）連携・調整

## ■世界アルツハイマーデーでのイベントの企画

- 特になし

## ■認知症初期集中支援事業への参画

（仙台市）

- 当士会では、市の依頼をうけ2018年より参画している。
- チームは診療所委託と、他5チームは市の直営となっており、県士会より4名のOTが配属となっている。
- 当初よりも訪問事例が増えてきており「可能な限り在宅生活を継続できるような体制の構築」に向けた取り組みを展開、OTへの期待も高まっている。
- 昨年度に引き続き、国立長寿医療研究センター主催の認知症初期集中支援チーム員研修に、当士会の認知症初期集中支援チームのチーム員が参加

（士会内活動）

- R3～R4年度への移行時に、士会渉外部の認知症関連の活動として、仙台市の認知症初期集中支援チームの活動経験のある新・旧メンバーでの情報交換会を開催した。
- その後は、参加者同士で必要に応じて連絡を取り合い情報交換や相談をしている。

## ■認知症カフェ事業への参画

(仙台市)

- 仙台市では月一回、仙台市薬剤師会と宮城県作業療法士会の共催で運営。
- いずれのカフェも、コロナ禍では飲食物の提供・人数制限などの感染対策を取りながら、ミニ講話・作業活動・軽体操等を通じて参加者同士の語り・支えあいに重きを置いた取り組みを行っている。
- また、より多くの方にカフェを知って頂けるよう、開催状況はInstagramで紹介している（#認知症カフェ#宮城県作業療法士会#仙台市太白区太子堂#大河原町#うめカフェ）
- 認知症介護研究・研修仙台センターが仙台市からの委託を受け、認知症カフェ支援事業の一環として開催している「認知症カフェ企画・運営者会議」に、一昨年より参加の機会を頂き、市内で開催されている認知症カフェ運営者と開催・運営状況に関する情報交換や今後認知症カフェを継続・普及させていくための方策について意見交換を行っている。
- これまでの取り組みとしては、宮城県長寿社会政策課・仙台市地域包括ケア推進課・認知症介護研究研修仙台センター主催の「認知症カフェネットワークミーティング（仙台市全域の運営スタッフを対象）」や「認知症カフェセミナー（認知症カフェや介護者交流会の企画・運営等に携わっている方、関心のある方を対象）」の企画や、認知症カフェ普及・啓発のための「のぼり」の作成に携わった。

(大河原町)

- 大河原町では、週3回(月・木・土)、大河原町地域包括支援センターが運営している認知症カフェに参画している。
- 作業療法士、薬剤師、福祉ネイリスト、はつらつメイト(介護予防サポーター)が地域包括支援センターの専門職と共同し携わっている。
- 内容は、作業活動、ミニ講和、軽体操などを行っており、活動を通して地域の繋がり作りや各相談に対応している。
- また、月曜日のカフェは児童館をお借りして開催しており、小学生との交流の場にもなっている。



## ■COVID-19の影響・対応など

(仙台市・大河原町の認知症カフェ)

- 感染拡大により、認知症カフェ会場が使用不可となり中止した時期もあった。
- 参加者との繋がりが途絶えないよう、ハガキやチラシなどで、毎月のカフェ開催の有無やご案内をお知らせしている。
- 認知症カフェ開催時は、アルコール消毒やマスクの着用、換気、三密の回避など基本的な感染対策を徹底している。

(仙台市の認知症初期集中支援チーム)

- 青葉区で開催される認知症初期集中支援チームの会議では、地域のケアマネージャー、包括支援センター職員のオンラインによる会議参加も積極的に行っている。感染が落ち着いた時期には対面での会議もあった。

(大河原町の認知症初期集中支援チーム)

- 初期集中支援チームの訪問も、一時期中止されていましたが、現在は再開している。
- ただし、訪問する側が感染対策をしていたとしても、対象者側はノーマスク、無関心といったことがあり、なかなか理解を得るのが難しいことが課題である。